

設置届の場合

変更届出の場合は、変更のある部分について、別紙に
変更前及び変更後の内容を対照させて記載してください

様式第1

該当するもの以外は二重線で消してください

ばい煙発生施設設置(使用、変更)届出書

(宛先)

埼玉県〇〇環境管理事務所長

提出日を記載してください

該当する環境管理事務所名又は市名を
記載してください
(管轄はパンフレットを参照してください)

令和〇〇年〇〇月〇〇日

届出者 〒330-9301
さいたま市浦和区高砂3-15-1
〇〇産業株式会社
代表取締役社長 埼玉太郎
(電話番号 048-824-2111)

氏名又は名称、住所を記載してください
(※法人の場合は、本社の名称、住所、代表者の氏名)

該当するもの以外は二重線で消してください

大気汚染防止法第6条第1項(第7条第1項、第8条第1項)の規定により、ばい煙発生施設に
ついて、次のとおり届け出ます。

ばい煙発生施設を設置する工場名、支店名、ビル名等を
記載してください

工場又は事業場の名称	〇〇産業(株)◇◇工場	※整理番号	
工場又は事業場の所在地	〒〇〇〇-〇〇〇〇 ◇◇市〇〇1-1-1	※受理年月日	年 月 日
ばい煙発生施設の種類	1項 ボイラー	※施設	例 1項 ボイラー 11項 乾燥炉 13項 廃棄物焼却炉
ばい煙発生施設の構造	別紙1のとおり。	※審査結果	
ばい煙発生施設の使用の方法	別紙2のとおり。	※備考	
ばい煙の処理の方法	別紙3のとおり。		

- 備考 1 ばい煙発生施設の種類のカラムには、大気汚染防止法施行令別表第1に掲げる項番号及び名称を記載すること。
- 2 ※印のカラムには、記載しないこと。
- 3 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
- 4 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格A4とすること。

同じ項番号の施設の場合、同時に複数の施設を届け出ることができます

ばい煙発生施設の構造

工場又は事業場における施設番号		1号	2号
名称及び型式		炉筒煙管式 〇〇KMH-05A	炉筒煙管式 〇〇KMH-08A
設置年月日		年 月 日	年 月 日
着手予定年月日		令和〇〇年〇〇月〇〇日	令和〇〇年〇〇月〇〇日
使用開始予定年月日		令和〇〇年〇〇月〇〇日	令和〇〇年〇〇月〇〇日
規	伝熱面積(m ²)	30.2	49.5
	燃料の燃焼能力 (重油換算L/h)	214	339
	原料の処理能力(t/h)		
	火格子面積又は羽口面断面積 (m ²)		
	変圧器の定格容量(kVA)		
	触媒に付着する炭素の燃焼能力 (kg/h)		
	焼却能力(kg/h)		
模	乾燥施設の容量(m ³)		
	電流量(kA)		
	ポンプの動力(kW)		
	合成・漂白・濃縮能力(kg/h)		

設置届出 → 着手予定年月日、使用開始予定年月日
 使用届出 → 設置年月日
 変更届出 → 設置年月日、着手予定年月日、使用開始年月日
 をそれぞれ記載してください

重油換算で記載してください
 ・重油 1 ㏩は、液体燃料 1 ㏩、ガス燃料 1.6m³、
 固体燃料 1.6kg に相当します
 (※一部例外あり)

備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。

例 廃棄物焼却炉の場合
 →・焼却能力
 ・火格子面積
 例 電気炉の場合
 →・変圧器の定格容量

2 規模の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1の中欄に掲げる施設の当該下欄に規定する項目について記載すること。

3 ばい煙発生施設の構造概要図を添付すること。概要図は、主要寸法を記入し、日本産業規格A4の大きさに縮小したもの又は既存図面等を用いること。

ばい煙発生施設の使用の方法

工場又は事業場における施設番号		1号			2号		
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等	9時～17時 8時間/回 1回/日 22日/月			9時～17時 8時間/回 1回/日 22日/月		
	季節変動	無			無		
原材料 (ばい煙の発生に影響のあるものに限る。)	種類						
	使用割合						
	原材料中の成分割合(%)	いおう分 カドミウム分	鉛分 弗素分		いおう分 カドミウム分	鉛分 弗素分	
	1日の使用量						
燃料又は電力	種類	A重油			A重油		
	燃料中の成分割合(%)	灰分 0.03 (重量)	いおう分 0.3 (重量)	窒素分 0.03 (重量)	灰分 0.03 (重量)	いおう分 0.3 (重量)	窒素分 0.03 (重量)
	発熱量	44,100 kJ/kg			44,100 kcal/kg		
	通常の使用量	最大 通常	200 L/h 160 L/h		最大 通常	280 L/h 240 L/h	
	混焼割合	専焼			専焼		
排出ガス量(Nm ³ /h)	湿り	最大 2782	通常 2080		最大 427	通常 3120	
	乾き	最大 2603	通常 1946		最大 412	通常 2919	
排出ガス温度(℃)	200			200			
排出ガス中の酸素濃度(%)	6 (容量比)			5 (容量比)			
ばい煙の濃度	ばいじん (g/m ³)	最大 0.1	通常 0.08		最大 0.1	通常 0.08	
	いおう酸化物 (容量比ppm)	最大 149	通常 149		最大 149	通常 149	
	カドミウム及びその化合物 (mg/m ³)	最大	通常		最大	通常	
	塩素 (mg/m ³)	最大	通常		最大	通常	
	塩化水素 (mg/m ³)	最大	通常		最大	通常	
	弗素、弗化水素及び弗化珪素 (mg/m ³)	最大	通常		最大	通常	
	鉛及びその化合物 (mg/m ³)	最大	通常		最大	通常	
窒素酸化物 (容量比ppm)	最大 100	通常 75		最大 140	通常 100		
ばい煙量	いおう酸化物 (m ³ /h)	最大 0.38	通常 0.29		最大 0.63	通常 0.46	
参考事項	備考4を参照してください						

重量比、容量比の別を明らかにしてください

重量比、容量比の別を明らかにしてください

高位発熱量を記載してください

重量比、容量比の別を明らかにしてください

・乾きガス中の濃度を記載してください
・排ガス処理施設がある場合は、処理後の濃度を記載してください

- 備考 1 原材料中の成分割合(%)の欄及び燃料中の成分割合(%)の欄の記載にあたっては、重量比%又は容量比%の別を明らかにすること。
- 2 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 3 ばい煙の濃度は、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とすること。
- 4 参考事項の欄には、ばい煙の排出状況に著しい変動のある施設についての一工程中の排出量の変動の状況、窒素酸化物の発生抑制のために採っている方法等を記載するほか、ガスタービン、ディーゼル機関、ガス機関又はガソリン機関については、常用又は非常用(専ら非常時において用いられるものをいう。)の別を明らかにすること。

ばい煙の処理の方法

ばい煙処理施設の工場又は事業場における施設番号		1号煙突	2号煙突
処理に係るばい煙発生施設の工場又は事業場における施設番号		1号ボイラー	2号ボイラー
ばい煙処理施設の種類、名称及び型式			
設置年月日		年 月 日	年 月 日
着手予定年月日		令和〇〇年〇〇月〇〇日	令和〇〇年〇〇月〇〇日
使用開始予定年月日		令和〇〇年〇〇月〇〇日	令和〇〇年〇〇月〇〇日
処	排出ガス量 (m ³ /h)	最大	
		通常	
煙	排出ガス温度 (°C)	処理前	
		処理後	
の	ばいじん (g/m ³)	処理前	
		処理後	
濃	いおう酸化物 (容量比ppm)	処理前	
		処理後	
度	カドミウム及びその化合物 (mg/m ³)	処理前	
		処理後	
能	塩素 (mg/m ³)	処理前	
		処理後	
	塩化水素 (mg/m ³)	処理前	
		処理後	
	弗素、弗化水素及び弗化珪素 (mg/m ³)	処理前	
		処理後	
	鉛及びその化合物 (mg/m ³)	処理前	
		処理後	
	窒素酸化物 (容量比ppm)	処理前	
		処理後	

設置届出 → 着手予定年月日、使用開始予定年月日
 使用届出 → 設置年月日
 変更届出 → 設置年月日、着手予定年月日、使用開始年月日をそれぞれ記載してください

乾きガス中の濃度を記載してください

ば い 煙 量	い お う 酸 化 物 (m ³ /h)	最 大	処 理 前			
			処 理 後			
		通 常	処 理 前			
			処 理 後			
	捕 集 効 率 (%)	ば い じ ん				
		い お う 酸 化 物				
		カドミウム及びその化合物				
		塩 素				
塩 化 水 素						
弗素、弗化水素及び弗化珪素						
鉛 及 び そ の 化 合 物						
使 用 状 況	1日の使用時間及び月使用日数等			9 時～ 17 時 8時間/回 1回/日 22日/	9 時～ 17 時 8時間/回 1回/日 22日/月	
	季 節 変 動			無	無	
排 出 口 の 実 高 さ Ho (m)			(傘なし) 18.0 × 0.5	(傘なし) 18.0 × 0.5		
補 正 さ れ た 排 出 口 の 高 さ He (m)			20.0	20.0		
排 出 速 度 (m/s)			6.83	6.83		

地上からの高さ×排出口の寸法を記載してください

次の計算式で計算してください

He=排出口の実高さ (Ho) +煙上昇高さ (ΔH)

ΔH=0.65×(Hm+Ht) 【笠付煙突の場合は Hm, Ht=0】

$$H_m = \frac{0.795\sqrt{Q \times V}}{1 + 2.58/V}$$

$$H_t = 2.01 \times 10^{-3} \times Q \times (T - 288) \times (2.30 \log J + \frac{1}{J} - 1)$$

$$J = \frac{1}{\sqrt{Q \times V}} (1460 - 296 \times \frac{V}{T - 288}) + 1$$

He: 補正された排出口の高さ
 Ho: 排出口の高さ
 Q: 15°Cにおける排出ガス量 (m³/s)
 V: 排出ガスの排出速度 (m/s)
 T: 排出ガス温度 (絶対温度 K)

- 備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 3 補正された排出口の高さHeは、大気汚染防止法施行規則第3条第2項の算式により算定すること。
- 4 ばい煙処理施設の構造図とその主要寸法を記入した概要図を添附すること。